

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通火

B U N K A T S U S H I N

2025秋 No.127



だれでもダンス!アート!ダンス!

障害があっても無くても美しいと思う気持ち、踊りたいという気持ちはある。「でけでけ隊」の皆さんにはプロのアーティストやダンサーと共に、新しい曲を作ったり衣装のデザインを考えたり、言葉では伝えられない自分たちの想いをダンス表現にして、高松まつりの総踊りで爆発した。
(令和7年度助成事業)

- 第11回 あ・うんの数寄講座
茶の湯をさらに楽しむ夏期講習(前半)
- 茶室 de 若人茶会 高松工芸高等学校茶華道部
- 9月から11月までの茶華道情報／財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL (087) 826-3355 FAX (087) 826-2212
2025年秋号 No.127 9月1日発行(季刊)

茶の湯をさらに楽しむ夏期講習

第11回

第1回 7月26日（土）

「茶の湯において流行した唐物のうつわの変遷とその意義」

講師 德留 大輔

（出光美術館学芸部資料・保存課長）

中国産の茶道具を「唐物」と呼称してきましたが、どのような中国陶磁器、特に茶碗が伝わってきたか、その変遷に注目しながら、日本の歴史の中でどう扱われてきたのか、本来は使用が主目的の茶碗が特権階級者たちの賞玩用の茶碗になり、その評価が時代によって変わったたりアンティークに評価されてきた唐物の変遷を見ていきたいと思います。

奈良、平安時代より遣隋（唐）使船にもたらされた大陸文化の一つに僧侶の修行に欠かせぬ喫茶がありました。当然、焼き物の茶碗も輸入され、中国越州窯系の青磁、華北系の白磁などがあり、特に青磁はその色合いを唐の秘色と形容して珍重され源氏物語にも描写記述がみられます。また藤原道長の菩提寺跡から陶器の水注が出土して、当時の貴族階級の中で大切に扱われていたことが伺えます。

鎌倉時代になると新たな時代の喫茶法が伝わり、唐物茶碗も建盏、天目が登場し、龍泉窯系の青磁茶碗が多く舶来しました。この時代から喫茶の習慣は武家社会に浸透して裾野が一気に広がり茶碗も大量に輸入されました。朝鮮半島西南海岸の木浦沖の新安で沈没船が発見された時の引き上げ調査の結果、船は中国の慶元（現在の浙江省寧波）から至治三年（一二三三）に日本に向けて出港して台風で難破したのでしょうか。発見まで七百年近くも海底に沈んでいましたが荷札木簡の読み解きや、一万八千点にも及ぶ陶磁器（龍泉窯青磁、天目、白磁など）が引き上げられたことからも、当時の日本からの需要の多さが測れるというものでしょう。他の産地の製品や二五八百万枚に及ぶ銅錢も積まれてきましたが、元青花は発見されませんでした。

室町時代に入ると君台觀左右帳記が語る唐物甚嚴の世界における茶碗の格式や序列化が確立します。曜変、油滴、禾目、玳波、灰被などの天目茶碗や青磁、白磁など今もつて国宝や重要文化財として大切に守られている唐物茶碗がたくさんあります。それに対して、中国では窯址出土品（破片）が見られるだけで、市中において完成品の伝世や出土は見られません。特に、灰被天目の日本での出土状況は古く、九州大宰府政庁跡、博多遺跡、

が伝わり、唐物茶碗も建盏、天目が登場し、龍泉窯系の青磁茶碗が多く舶来しました。この時代から喫茶の習慣は武家社会に浸透して裾野が一気に広がり茶碗も大量に輸入されました。朝鮮半島西南海岸の木浦沖の新安で沈没船が発見された時の引き上げ調査の結果、船は中国の慶元（現在の浙江省寧波）から至治三年（一二三三）に日本に向けて出港して台風で難破したのでしょうか。発見まで七百年近くも海底に沈んでいましたが荷札木簡の読み解きや、一万八千点にも及ぶ陶磁器（龍泉窯青磁、天目、白磁など）が引き上げられたことからも、当時の日本からの需要の多さが測れるというものでしょう。他の産地の製品や二五八百万枚に及ぶ銅錢も積まれてきましたが、元青花は発見されませんでした。

桃山時代十六世紀の天正年間に入ると灰被天目、黄天目の評価が高まり、曜変、油滴、建盏と人気が逆転する感があります。また、高麗茶碗や「和物」茶碗の使用、それぞれの宗匠好みが色濃くでてきています。それに対して、中国では窯址出土品（破片）が見られるだけで、市中において完成品の伝世や出土は見られません。特に、灰被天目の日本での出土状況は古く、九州大宰府政庁跡、博多遺跡、

鎌倉築城遺跡など十四世紀時代の発掘品が多く、十五世紀になると城館遺跡や首里城より出土が見られ灰被天目茶碗の流れとなりますが、室町時代後期に描かれた「福富草紙絵巻」の一場面をご覧いただきます。庶民の滑稽な話を絵巻物にしたものですが、当時の風俗画として時代を研究する者たちのリアルな資料となります。物語は放屁の珍芸で富を得て財を成した老人とこれを真似て失敗して罰せられた隣家の老人との他愛のない笑い話ですが、福富男の家の室内描写は床に畳を敷き、火鉢もあり、脇には従者も控え、主の老人は烏帽子を付け富裕層気取りの体で、壁際の飾り棚に天目茶碗や青磁の鉢や大皿を飾った絵画の中に、ちょっととした庶民がステータスシンボルである唐物茶碗を飾る風習が普及していました。もちろん、豪華に飾ったことが想像できます。もちろん、豪華に飾ったものでしょが、豊富な財力と深い知識で愛でてきた美術品が一般にも流行していた一例でもあります。



そして現代、多種多様な唐物茶碗が他国への生産によりながらも、国宝や重要文化財指定を受けて広く展覧の美術品という位置づけになっています。もちろん、過酷な時代による美術品の流転が繰り返されながらも、その都度、さらなる愛蔵精神に守られて、喫茶習慣や茶の湯の歴史的展開の中で受容選択されてきたわけです。

（妹尾共子）

「宇治茶生産の歴史と現在」

講師
(京都芸術大学客員教授、日本庭園・歴史遺産
研究センター日本庭園研究部門長) 杉本 宏

日本のお茶の生産量というと静岡と鹿児島だけで四分の三を占めており、京都は全体で見ると僅かです。

茶畠は二種類に分けられます。煎茶は茶畠が綺麗に畝状に整列した露天園、碾茶は茶畠を覆い隠した覆下園で収穫されます。日本で覆下園は千ヘクタールほどしかありません。日本全国で見ると僅か下園です。なので宇治では茶摘みの時期にほとんどが覆いが掛かっていて、見ることができません。

宇治茶の生産地は京都と奈良の間です。主に平地側で煎茶を、山の中で碾茶をつくっています。碾茶の茶畠はぼうぼうとしていて、人間の背丈ほどの高さがあります。茶摘み子が手摘みした生茶葉を、乾燥させて石臼で挽いたものが「抹茶」となります。

そんな宇治茶の始まりは鎌倉の時代に、明惠上人の駒影伝説として残されています。「梅山の尾上の茶の木分け植えて、あとぞ生ふべし駒の足影。」この歌は茶種の植え方を知らない宇治の里人に、「馬の足跡に種をまけ」と教えるため、梅尾高山寺の明惠によつて詠

まれました。茶種は臨済禅宗の開祖である榮西によって、宋から持ち帰られたものです。鳥獸戯画で有名な高山寺と、京都のあちこちに植えたのが茶の始まりとされていて、室町初期の『異制庭訓往来』では、梅尾を茶の格として最上に置かれ、「梅尾のお茶でなければ茶に非ず」とまで言われました。

安土桃山時代、豊臣秀吉により宇治茶保護が打ち出されました。宇治茶は基本的に「宇治で袋詰めされた茶」とされ、すなわち「茶の集積加工場」として宇治の名前が茶に冠されました。

江戸時代に入ると、宇治茶は特権化していきます。お茶の頭取が、宇治の代官を務めるようになり、行政・司法・経済は全てお茶の生産者が握るようになりますした。「お茶壺道中」で徳川幕府にお茶を送つたのも宇治でしたが、献上していたわけではなく、幕府から購入にきたのであります。将軍家で大量に消費するお茶を一手に引き受け、特権階級の人たちに専門でお茶をつくっていた街が宇治でした。

しかし、盛者必衰の理の例に漏れず、御茶師が没落したのは近代化が起きたとき、江戸幕府が倒れたのがきっかけでした。権威と結び付いた多くの御茶師が没落しましたが、お茶 자체は、富国強兵の中で輸出品として必要とされた結果、商才のある人たちによって取り上げられるようになります。

さて、現代の話に戻りまして、宇治の茶生産における収穫は年に一度。一番

茶のみを収穫するので、収穫の時期以外は一年中手間隙かけて一番茶を取るためだけに育てるのです。取ったお茶を碾茶とするために、碾茶乾燥炉を使って茶農家が自分で加工し、多様な茶園より茶葉を茶商が買い取って、それぞれの長所が良くなれるようにブレンドします。この配合比は御茶師が、宇治では社長がやつていて、他の人には任せません。なので毎年味は変わりますが、毎年近い味になるようには合わせてるので、そこまでの変化はありません。一つの茶園で採れた単品種の茶葉で飲むと、茶園ごとの味を楽しめるということもあります。自分好みの茶葉を探してみても楽しそうですね。

茶摘みが終わつた後は「番狩り」とい

う、一年前から伸びていた古い枝を切り落とします。お茶の記憶をリセットさせることです。そこからまた一年伸びた新芽を、また来年刈り取ることになります。古い枝の葉にも栄養が含まれているので番茶にするのが普通ですが、宇治では全部肥料として、来年の碾茶のためにと徹底しているのです。

覆下園でつくられた碾茶は、露天園で

をつくることで甘味と旨味をもつた味となります。が、煎茶で作ると苦味が強く出てしまします。

宇治以外でも覆下園を模倣する試みはあるのですが、煎茶用の品種で育成した茶畠を、そつくりそのまま碾茶用に植え直したり、覆いを設置したりするには大変な年月と労力がかかります。まさに宇治茶は一日にして成らず。

抹茶はスイーツとしての人気もさることながら、インバウンドで観光に来た外国人からも好評を得られていて、現在では需要がどんどん高まっています。その影響もあって日本各地においても碾茶の生産は急増していますが、番茶を秋碾茶として抹茶にする、煎茶用品種で碾茶を作ることなど、課題も多くあるのが現状だそうです。

(中條嵩斗)



茶室 de 若人茶会

とき 令和7年7月21日(月・祝)

処 晴松亭

席主 高松工芸高等学校茶華道部

茶華道部 部長 村本心咲

早

々と梅雨が明け猛暑の中、昨年に引き続き、中條文化振興財団にて高松工芸高等学校の茶華道部として茶会を開催致しました。環境の整った茶会会場で、日頃のお稽古の成果をお客様に見ていただけた機会に恵まれました。感謝の気持ちの中に部長としての少しの不安、多くの嬉しさ、そしてやりきる満足感への期待、又来年はこの機会がない寂しさ等、色々な気持ちが交差する一日でした。が、無事に終え、こうして茶会のご報告が出来ますことに感謝申し上げます。又、お越しくださいました多くのお客様、誠にありがとうございました。

高松工芸高等学校茶華道部は、男子部員、女子部員併せて13名で活動しております。今回のお茶会は5月から準備を始めました。7月21日は「海の日」、をヒントに海に因んだテーマである事、又、我が高校特徴である手作りの茶道具を使用する事、部員で話し合いアイデアを出し合って今回の茶会が出来ました。高松は海に面しており名勝旧跡は沢山

あります所から、「源平合戦 屋島の戦」にしました。このテーマに合った手作りのお道具を取り入れましたが、今までには先輩方の残してくださった作品を使っての茶会でした。在校生の作品は、参加はしておりませんでした。今回はこれに挑戦いたしました。それがお待合の短冊です。松本先生が上の歌、部員が下の歌に全員が挑戦して選ばれたものに、現校長

先生であります金子達雄校長先生の筆で【玉藻の浦 潟ぎ出てみれば 古戦場白帆に染まる 零落の花】と、平家が屋島の合戦で負けて山口の壇ノ浦に落ち行く姿を読みました。

【祇園精舎の鐘の音 諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理

あらわす おごれる人も久しからず ただ春の夜の夢のごとし たけき人もついには滅びぬ ひとへに風の前の塵に同じこれは世の中の移り変わりや】

榮枯衰退を象徴する源平合戦の冒頭の言葉です。これを席中に表現しました。

★屋島の合戦を→寄り付き待合 那須与一扇的絵

★平家の滅亡を→待合床玉藻の浦:

短歌 ★源氏を→茶杓名

太夫黒(義経の愛馬) ★祇園精舎:響きありを→花 花入れ香合、釜 ★おご

れるもの久しからずや:たけき者:滅びぬを→床の軸 和を以て貴し ★春の夜の夢を→菓子銘 泡沫の舞 ★日本の歴史を→お茶銘 都の昔 ★今の高松を→火入屋島狸

7月26~31日開催の全国高校総合文化祭マスコットキャラクターさぬぼん ★海の日を→世界がつながる七つの海 莢盆ハワイ製ヤシの木 今回

は生徒の作品を8点使いました。使った作品の一部を紹介します。



ります。茶碗は陶胎雪月花絵と言いまして陶器に漆で絵を描いております。又、建水は鍛金と言つて一枚の銅板を何万回と打ち出して形を作ります。何れも時間、手前、忍耐力、技術力で出来上がつたものです。是非、高松工芸高等学校の茶会にお越しください皆様に見ていただきたいと思います。私も現在漆塗りでお菓子盆を製作中です。今回の茶会の様に後輩に使って貰える事を楽しみにしています。

又、暑い中、お茶会に来てくださるお客様に喜んで頂きたいと思いまして、すぐだれを通してお庭が涼しく見られる様に、点前座では平水指に洗い茶巾を取り入れました。洗い茶巾のお点前は、水をポタポタと落とすところに稽古ではかなり苦戦しましたが本番では皆失敗も無く出来ました。迷いの無い点前や亭主の大きい声での受け答え、半東、お運びのタイミング、水屋のサポート、それぞれ役割分担に全員が力を合わせる事でお客

様からの激励の言葉をいただいたり、笑顔で帰つて行くお姿を見て、全員が一丸となつて作り上げた茶会でした。

今回の茶会の特徴は多くの高校生、高校の茶道講師、茶華道部顧問の先生方が来てくださいました事です。折角の交流の機会と思いまして、正客を高校生にお願いしました。3つの高校が応じてくださいました。

学生の正客からどんな質問をされるかわからぬので緊張しました。正客をされた学生さんも緊張されていました。他のお客様が学生同士の席の進行をどう思われているかも気になりました。

又、今回は生徒の短歌を取り入れましたから、ある正客様に即興で短歌をお願いいたしました。快く応じて下さり、

テーマに沿つた内容とこの茶会の現在の事の2首、お披露下さいました。拍手が湧きました。お客様に参加して頂きよかったです。



短い時間の練習でしたが、普段と違うが皆が助け合いながら頑張った事で無事に終えることが出来ました。今回学んだことを踏まえ、次のお茶会に向けて前進したいです。

ここで部員たちの今回の茶会を通しての感想を紹介します。

お点前も亭主もしまましたが、普段と違う茶室で大変でしたが、機転の大切さを勉強致しました。お客様の暖かさが分かりました。

短い時間の練習でしたが、普段と違った事で無事に終えることが出来ました。今回学んだことを踏まえ、次のお茶会に向けて前進したいです。

あるお正客様は、お床の掛け軸「和を以て貴し」の意味を教えてくださいました。和とは人々の和ではなく本来一人一人が持つ心の和で有ると、またこのお正客様は「茶道に関わつたのは随分年を得てからである故に今においては後悔しています。しかしあなた方のように早い世代から茶道を経験する事は人生が広がることで良いことです。」と言つてくださいました。大変うれしくなりました。

来てくださる多くのお客様の反応、陰で支えてくださった先生方、会場を提供してくださった中條文化振興財団様、心を一つにしてお稽古を頑張った部員の仲間達の力でお茶会が出来ました。

部員の家族の感想を紹介します。

多くの部員の家族はびっくりしておりました。それは普段見ている私たちの姿から想像付かない事で「堂々としていた」とか「笑顔がよかつた」と言わされました。今後も部活に協力して貰えると嬉しいです。

反省会で部員が学んだことを紹介します。

多くの各高校の生徒の皆様方がお越しくださる事で、他校のお茶会への関心が芽生えた。

最初のお席はちぐはぐでタイミングが悪いことがありましたが、会を重ねて最後には上手に出来る様になりました。そして、その時にはお席が終わつていました。多くの経験が大切だと気付きました。

お客様のお陰で全てのお席が和やかだつたと思います。お陰で緊張が取れました、有難う御座いました。

次回はもっと臨機応変に行動できるよう頑張ります。



高松工芸高等学校茶華道部は、今回の茶会で学び培つた力でこれからも真っ直ぐ誠実に茶道に向き合つて参ります。これからも皆様がお越しくださる様な茶会が開催できるように、稽古に勉強に励んでまいります。高松工芸高等学校茶華道部が茶会を開く際には是非お越しください。部員一同、心よりお待ちしております。

練習をしつかりとしておく大切さを強く感じました。そうすると本番に慌てなく臨機応変に対処出来る事がわかりました。

▶茶華道ガイド

急遽中止等の変更となる場合があります。

表千家同門会香川県支部 TEL (087) 845-4638

11/9	表千家流 四季茶会	席主:松井政子 大西・アオイ記念館	1,000円 9:00~15:00
琴平月釜茶道会 TEL 090-3460-9195			
10/10	金比羅例大祭茶会	席主:煎茶・静風流 金丸洋子 アクトことひら	500円 10:00~15:00
11/9	琴平町文化祭茶会	席主:琴平官休会(田中、山下、竹井) アクトことひら	500円 10:00~15:00
12/6~7	琴平町歳末チャリティ茶会	席主:裏千家琴平 総合センター1F大広間	300円 10:00~15:30 (7日は15:00まで)

茶道裏千家淡交会香川支部 TEL 0877-62-4155

9/7	多度津分会	席主:青年部OB 多度津町地域交流センター	600円 10:00~15:00
10/12	月釜	席主:安井宗善 総本山善通寺	600円 10:00~14:00
10/19	観月茶会	席主:多度津分会 さくらーと2階 ホワイエ	500円 13:30~19:00
10/19	月釜	席主:宮本宗公 翠松閣	600円 10:00~14:00
11/1	あやうたふる里まつり	席主:綾歌教授者 アイレックス	400円 10:00~15:00
11/3	文化の茶会	席主:口入田宗美 翠松閣	600円 9:30~14:00
11/3	文化の茶会	席主:丸亀教授者 中津万象園	600円 10:00~15:00
11/3	善通寺文化祭茶会	席主:善通寺教授者 鉢伏ふれあい公園	500円 10:00~14:00
11/23	護国神社新嘗祭	席主:善通寺教授者 善通寺護国神社	600円 9:30~14:00
		献茶(森川宗順)	10:00~(献茶中、茶席は休み)
12/6, 7	年末助け合いチャリティ茶会	席主:琴平教授者会 琴平町総合会館	300円 9:00~15:00

茶道裏千家淡交会高松支部 TEL (087) 841-0605

9/28	香川県茶道協会 秋季茶会	席主:淡交会高松支部 田中宗聖 玉藻公園披雲閣 蘇鉄の間	2,000円(楳の間にて石州流茶席) 9:00~15:00
10/12	高松支部 子ども茶会	席主:高松支部学校茶道連絡協議会 大西・アオイ記念館	500円 10:00~15:00
	〈高松支部月釜〉 大西・アオイ記念館		1,000円 9:30~15:00(時間指定)
9/7	席主:白井宗美		
10/5	席主:笹山宗恵		
11/2	席主:高松青年部		

茶道石州流琴松会

TEL 087-888-5311

9/28	秋季茶会	第1席／楳の間 席主:茶道石州流琴松会 第2席／蘇鉄の間 席主:茶道裏千家淡交会高松支部 玉藻公園披雲閣	2,000円(茶席2席) 9:00~15:00
------	------	--	-------------------------

石州流讚岐清水派石州会 TEL 090-2826-9229

10/26	流祖宗閑公353年祭記念茶会	席主:池内宗明、大上宗喜、塩田宗知 玉藻公園披雲閣	1,000円 9:00~15:00
-------	----------------	------------------------------	-------------------

煎茶道三癸亭賣茶流 TEL 087-898-3655

11/16	由佐城月釜茶会	席主:多田久美子 香南町歴史民俗郷土館	前売800円・当日券900円(販売は由佐城受付)
9:30~14:00			

美笑正流 TEL 087-879-2186

11/16	川東文化祭 美笑正流華展	川東コミュニティセンター	無料 9:00~15:00
-------	--------------	--------------	---------------

武者小路千家香川官休会 TEL 087-862-8574

9/7	香川官休会 月釜	席主:三好宗太郎 無量寿院	1,000円 9:00~15:00
11/3	松平公益会100周年記念茶会	席主:香川官休会 玉藻公園披雲閣	1,500円 9:00~15:00

東讚茶道懇話会 TEL 087-898-0391

9/21	月釜	席主:石州流 山崎可寿子 池戸西徳寺	800円 9:00~15:30
------	----	-----------------------	-----------------

大西・アオイ記念財団 TEL (087) 880-7888

9/21	藤澤南岳展に伴う講演会と茶席	席主:美澤宗包(表千家流) 大西・アオイ記念館	2,000円(図録進呈) 10:00~15:30
9/23	2025年度文化講演会	講師:16代 樂吉左衛門 サンメッセ香川	1,500円 12:30~13:50

9/23	2025年度文化講演会 記念茶会	席主:裏千家淡交会高松支部 大西・アオイ記念館	1,000円 9:00~15:05
<大西・アオイ高校茶会>			400円 10:00~(予定)

10/26 席主:高松商業高校茶華道部

12/14 席主:高松高校茶華道部

高松市香南歴史民俗郷土館 TEL (087) 879-0717

9/21	由佐城月釜茶会	第2研修室(和室)	前売券800円・当日券900円 9:30~14:30
------	---------	-----------	----------------------------

10/19 席主:土居宗綾(表千家 真子宗博社中)

11/16 席主:川原宗津(裏千家)

11/16 席主:多田久美子(煎茶道三癸亭賣茶流)

おいでまい香川

香川県内の様々なイベント情報を随時更新中!

<https://oidemai.kagawa.jp/>



愛されるには訳がある

郷土菓子や土産菓子の中で地名の付いたお菓子はいくつぐらいあるのでしょうか。807年(大同2年)弘法大師が神宮寺に聖観世音菩薩の像を安置した後『観音寺』と称するようになった地で、1960(昭和35)年に誕生したのが“銘菓 観音寺”です。

パッケージは香川県出身のデザイナー 和田邦坊さんが手がけるデザインが目を惹きます。上面には観音寺市の観光スポット銭形砂絵「寛永通宝」の銭形に由来した焼き印があり、丸は「円滑」、四角は「質実剛健」を表しているそうです。地元では『観音寺まんじゅう』や『かんまん』と呼ばれ親しまれているお菓子です。

そんな“銘菓 観音寺”は白あんベースの特製黄身あんをバターをたっぷり使ったカステラのような洋風の生地で包んでいるので“饅頭”とよばれていますが洋菓子のようです。ふんわりとした舌触りの生地と中に入った黄身あんとの相性も良く素朴

な甘さの洋風和菓子です。

賞味期限が短く、品質を守るために観音寺市内や限られたお店にしか置いていないのだとか。こういうこだわりも長く愛されている理由なんでしょうね。そんな貴重なお菓子を是非探してみてはいかがでしょうか。



お茶の風景 (29)

静御前



「義経記」は都隨一の舞姫・静御前と源氏の御曹司・義経の華やかな恋が暗転、鎌倉鶴岡八幡宮で「しづやしづしづの苧環くりかえし昔を今になすよしもがな。吉野山峰の白雪ふみわけて入りに入りにし人の跡ぞ恋しき」と義経を慕つて舞う静を描き出し、由比ヶ浜にて我が子を殺され夫も奥州衣川の館で討死と、過酷な時代に翻弄された悲運の静を京都嵯峨野の庵に終焉させます。

ところが、我が讃岐では後日譚にして、母の里である東かがわ市丹生にもどり、長尾寺において得度して宥心尼と名を改め、夫や子供の菩提を弔いながら余生を過ごしたと言い伝え、境内の剃髪塚をはじめ、付近の静ゆかりの地が彼女の余生をさまざまに語り継ぎます。また、菊薫る季節ともなれば、長尾寺の書院では吉井勇の「佳き人の落飾すがたながめつつ女道をすがしみにけり」の和歌に静の尼姿を添えた軸を掛けた静風茶会が催され、秋のひととき、静御前を偲ぶ一碗の茶が振る舞われます。

財団行事予定
(9月～11月)

休館日水曜日

お申込みは財団まで。急遽中止になる事もあります。

9月

◆書道教室 森本義人先生

毎月第1・第3金曜日

9月5日・19日(金)午前10時～12時

◆ヤングヤング 山下純子先生

9月13日・27日(土)午後1時～

◆和菓子講座 高橋初乃先生

9月12日(金)午前10時～12時

◆月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日

9月16日(火)午前10時～午後2時(受付)

自由なお時間にどうぞ。(お弁当は予約制)

◆9月月釜 五人様茶会

※ご好評につき満席となりました

日時 9月28日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

席主 武者小路千家 竹井守恵社中

会費 10,000円(濃茶・薄茶・点心席)

10月

◆書道教室 森本義人先生

10月3日・17日(金)午前10時～12時

◆財団賞授賞式・

助成金交付団体認定書授与式

10月6日(月)午前10時30分～

◆懐石講座 三友居 山本勝先生

10月7日(火)午前11時

◆和菓子講座 高橋初乃先生

10月10日(金)午前10時～12時

◆ヤングヤング(子供茶の湯教室)

毎月第2・第4土曜日 山下純子先生

10月11日・25日(土)午後1時～

◆10月月釜 五人様茶会

「色鮮やかな季節を感じるお茶とお香をお楽しみください」と席主のメッセージを添えてご案内いたします。

日時 10月12日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

薄茶 武者小路千家 佐藤守春

香 御家流香道香雲会 野田法子

会費 10,000円(薄茶・香・点心席)

入席時間(各席6名・2時間15分を予定)

第1席 9時 第2席 10時30分

第3席 11時15分 第4席 12時45分

(各席A席・B席)

申込 電話受付 9月8日(月)10時～

◆月に一度の喫茶室

10月21日(火)午前10時～午後2時(受付)

自由なお時間にどうぞ。(お弁当は予約制)

11月

◆書道教室 森本義人先生

11月7日・21日(金)午前10時～12時

◆ヤングヤング 山下純子先生

11月8日・22日(土)午後1時～

◆11月月釜 五人様茶会

「心新たに開炉の衣服を楽しんでいただけたら幸いです」と席主のメッセージを添えてご案内いたします。

日時 11月9日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

濃茶 裏千家 神内宗康

薄茶 裏千家 井上宗恵

会費 10,000円(濃茶・薄茶・点心席)

入席時間 10月五人様茶会と同様

申込 電話受付 9月29日(月)10時～

◆和菓子講座 高橋初乃先生

11月14日(金)午前10時～12時

◆月に一度の喫茶室

11月18日(火)午前10時～午後2時(受付)

自由なお時間にどうぞ。(お弁当は予約制)

◆晴友会研修旅行

11月26日(水)～28日(金)

詳細は最終ページ参照

令和7年度 第33回財団賞決定

今年度の財団賞は、次の2件に決定いたしました。

勝賀城跡保存会

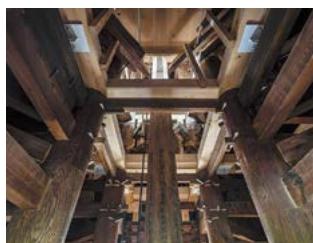
中世讃岐の豪族香西氏の山城・勝賀城は、羽柴秀吉の四国攻め戦乱で滅亡しましたが、香西氏の顯彰や曲輪(居館)遺跡などの保存、郷土の歴史を次世代に継承、機関誌発行などを目的に結成された団体で、活動は四十余年にも及んでいます。



多田善昭

建造物の歴史的、さらには文化的な価値を明らかにし後世に伝えるために活動されています。善通寺市「偕行社」の修理監修や総本山善通寺の全施設の調査を経て登録有形文化財の登録にも尽力されました。また、三豊市・本山寺五重塔の耐震補強と解体・保存修理を委員長として成し遂げられました。

写真・浅川敏



「声・情報お寄せください」

〒760-0017
高松市番町二丁目一一一二
TEL(087)826-3355
FAX(087)826-2212
info@chujo-zaidan.or.jp

公益財団法人 中條文化振興財団
編集部

かつて、一極集中が問題視されたが、交通の利便性を考えた時、ある程度は仕方のないことかもしれない。「瀬戸の都・高松」が再び活気を取り戻すようにと願っている。

晴友会研修旅行のご案内

財団の友の会「晴友会」の皆様には、日頃よりお世話になりました誠にありがとうございます。さて、今年も晴友会の研修旅行を企画いたしました。

今回は、夏期講習でもご講義していただいた出光美術館の徳留大輔先生のご縁で山口県立萩美術館や萩焼・深川窯の窯元、坂倉新兵衛窯、田原陶兵衛窯、新庄助右衛門窯と深川焼の窯跡遺構、お茶が有名な津和野の地のお茶園「秀翠園」などを尋ねる旅になりました。ちょっと面白目な萩・津和野のツアーです。

観光バスの都合もあって、高松出発は、難しいので、山陽新幹線の新山口駅に集合していただき、そこからバスの旅が始まる事となりました。参加ご希望の方は、財団事務局までお申し込み下さい。

日時 令和7年11月26日(水)～28日(金)2泊3日

新山口駅11時集合(現地集合、現地解散)

会費 晴友会会員 90,000円(現地バス代は財団が助成)

一般の方 100,000円

定員 25名(定員に達し次第終了)

申込 9月15日(月)10時より電話にて受付開始



編集後記